

会陽の起源への挑戦・経過報告

HP を公開する前は写真展にて情報公開していました。写真展を紹介する新聞記事です。
平成 6 年(1994 年)4 月 19 日・「しんぎ」の起源はやなぎ」・岡山日日新聞

新聞 新聞定価(消費税込み)月ぎめ1,800円、1部売り60円 第3種郵便物認可

会陽研究への情熱さらに

岡山の丸谷さんが独力で解明

「しんぎ」の起源はやなぎ



丸谷さんが2年間かけ集めた「しんぎ」の写真は珍しいものばかり

西大寺会陽で操縦が奪い合う「宝木(しんぎ)」は、その昔ヤナギだった。会陽について独自の研究を続けている岡山市西大寺上一丁目の会社員、丸谷憲二(かみ)さんが、『真実』の会陽を写真で紹介する写真展を、同市西大寺中二丁目の西大寺信用金庫本店ロビーで開いている。西大寺会陽の「宝木・ヤナギ」説を明らかにした写真や珍しい樹皮付きのしんぎなど、岡山県下各地の会陽に関する写真が集められており、丸谷さんは写真展を機に「会陽情報」の収集・研究にさらなる情熱を燃やしている。

丸谷さんが会陽に興味を持ったのは、仕事関係で会陽についての資料が欲しいと頼まれたのがきっかけ。調べてみると俗説が多く、正しい資料は西大寺観音院の坪井全広住職も携わった岡山市が

昭和五十五年に発行した報告書のみと分かった。それをもとに資料を作成していったところ、これ

までカシとされていた宝木が、実は「ヤナギ」という記述が見つかり、丸谷さんを含めた地元の人もびっくり。今度は自力で本格的に資料調査に乗出した丸谷さんは、ヤナギはインドや中国では重要な漢方だったことが「漢方が関係するので」と推定し、仏教医学の立場から解明できないかと研究を開始した。

二年間の研究の結果、西大寺地区が重要な仏教の布教地域だったことを突き止め、宝木(古い記述では心木)は、密教とかがわりの深い仏教医学に欠かせない漢方の中で重要ななかぜ葉だった「ヤナギ」からいつしか「カシ」へと移っていったことが分かった。

また、丸谷さんに与ると仏教医学から説明可能なものが多く「江戸時代

まは、寺が、病院」と「学校」の二つの役割も果たしていた。会陽も同じで精神面だけでなく、実用的な健康面にも意味があったことが今回の研究で明らかになった。いつのまにか形がい化した「宝木」や「会陽」の本当の意味を知る人がいなくなってしまうが、ちゃんとついでには「しんぎ」と丸谷さん(しんぎ)。

写真展では、西大寺観音院のカワヤナギ製の宝木(二六二六年)のほか、「沢田山恩徳寺」(岡山市沢田、一六六六年以前)の樹皮付きアオキ製や、彫刻の施された「岩生山元恩寺」(和気郡和気町原、一八八〇年)の八角形のしんぎなど、さまざまな形や形態のしんぎ十五点の写真や、会陽についての資料も解説を交えながら紹介している。

丸谷さんは「今後はしんぎの一覧表づくりや、全国のいたるところの会陽を比較しながら、来年には岡山民俗学会で発表し、いつかは本として出版したい」と話している。写真展は二十八日まで、午前九時から午後三時まで、土、日曜日は休み。

丸谷さんが会陽に興味を持ったのは、仕事関係で会陽についての資料が欲しいと頼まれたのがきっかけ。調べてみると俗説が多く、正しい資料は西大寺観音院の坪井全広住職も携わった岡山市が

昭和五十五年に発行した報告書のみと分かった。それをもとに資料を作成していったところ、これ

までカシとされていた宝木が、実は「ヤナギ」という記述が見つかり、丸谷さんを含めた地元の人もびっくり。今度は自力で本格的に資料調査に乗出した丸谷さんは、ヤナギはインドや中国では重要な漢方だったことが「漢方が関係するので」と推定し、仏教医学の立場から解明できないかと研究を開始した。

二年間の研究の結果、西大寺地区が重要な仏教の布教地域だったことを突き止め、宝木(古い記述では心木)は、密教とかがわりの深い仏教医学に欠かせない漢方の中で重要ななかぜ葉だった「ヤナギ」からいつしか「カシ」へと移っていったことが分かった。

また、丸谷さんに与ると仏教医学から説明可能なものが多く「江戸時代

まは、寺が、病院」と「学校」の二つの役割も果たしていた。会陽も同じで精神面だけでなく、実用的な健康面にも意味があったことが今回の研究で明らかになった。いつのまにか形がい化した「宝木」や「会陽」の本当の意味を知る人がいなくなってしまうが、ちゃんとついでには「しんぎ」と丸谷さん(しんぎ)。

写真展では、西大寺観音院のカワヤナギ製の宝木(二六二六年)のほか、「沢田山恩徳寺」(岡山市沢田、一六六六年以前)の樹皮付きアオキ製や、彫刻の施された「岩生山元恩寺」(和気郡和気町原、一八八〇年)の八角形のしんぎなど、さまざまな形や形態のしんぎ十五点の写真や、会陽についての資料も解説を交えながら紹介している。

丸谷さんは「今後はしんぎの一覧表づくりや、全国のいたるところの会陽を比較しながら、来年には岡山民俗学会で発表し、いつかは本として出版したい」と話している。写真展は二十八日まで、午前九時から午後三時まで、土、日曜日は休み。

TEL086-222-0601 一報道部直通一

話題 110番

会陽に関する写真集め
西大寺で写真展

卒業生の近況

三輪紙工(株)岡山営業所勤務
 丸谷 憲二 (機械工学科第2回卒業)

岡山市の西大寺と言えば裸の群衆が「宝木」を奪い合う裸祭りで行われている。この土地に転勤して25年、この間にこの裸祭りで奪い合う「宝木(しんぎ)」について興味を持つようになった経緯を丸谷憲二(機械工学科第2回卒業)さんが、知らせてきた。

金沢高専の卒業が昭和43年ですから、28年たったこととなります。三和紙工(株)という紙袋メーカーに入社し東京本社、静岡(草薙)そして現在、岡山(西大寺)に落ち着いております。平成3年に大病を患い2カ月半入院いたしました。岡山市内の病院でこの病気の権威の先生と出会い助けていただきました。

当時一番下の子供は小学1年生でした。見舞いに来て「お父さん、死んでしまうの」と言うくらいでした。この2カ月半の入院で私の人生観は大きく変わりました。“生かされている”と自覚する時、この町に私が生きていたという証を残したいと言う感情にかられ、「日本三大奇祭の備前西大寺会陽の漢方薬説による一考察」という研究にはいりました。

1616年の宝木(心木)の材がネコヤナギであり、なぜ心木にネコヤナギを使用するのかという観点から仏教医学説ができました。高野山大学をはじめ、各分野の最高権威のご指導を戴き、4年目にして民族学会で80分の発表ができました。今後は、高野山大学への論文提出を目標として研究を続けたいと思っております。

会陽(えよう)とは、新年に行われる修正会(しゅしようえ)のことで、寺院で正月元日から三日間あるいは七日間、国家の隆昌を祈る法会です。この行事の中で縁起ある御宝木(しんぎ)を奪い合うことができたでしょう。丸谷さんは、この宝木に大変関心を持ち、これを調査したところ、これまでカシとされていたものがヤナギらしいことが分かってきた。さらにヤナギはインドや中国では重要な漢方だったことから、漢方が関係するのではと推測し、仏教医学から調査した。結果、西大寺地区が重要な密教の布教地域であったことと、宝木は密教とかがわかりが深く、仏教医学に欠かせない漢方の中で、重要なかぜ薬だったヤナギが使用されていた。これがカシへと移って行ったことが分かった。寺が病院と学校の二つの役割を持ち、この行事も精神面だけではなく、実用的な健康面にも意味があることが分かった。さらに丸谷さんは、岡山県から全国にわたり調査研究し、著書にしたいと望んでいる。

今までの研究調査を岡山市内の会場で展示したところ、地元の人でも大変興味をもったことが、岡山日日新聞や山陽新聞に報じられている。

会陽研究への情熱さらに



“しんぎ”の起源はヤナギ
 岡山の丸谷さんが独力で解明
 会陽の起源はヤナギであることが、丸谷さんの研究で明らかになった。西大寺の会陽は、新年に行われる修正会(しゅしようえ)のことで、寺院で正月元日から三日間あるいは七日間、国家の隆昌を祈る法会です。この行事の中で縁起ある御宝木(しんぎ)を奪い合うことができたでしょう。丸谷さんは、この宝木に大変関心を持ち、これを調査したところ、これまでカシとされていたものがヤナギらしいことが分かってきた。さらにヤナギはインドや中国では重要な漢方だったことから、漢方が関係するのではと推測し、仏教医学から調査した。結果、西大寺地区が重要な密教の布教地域であったことと、宝木は密教とかがわかりが深く、仏教医学に欠かせない漢方の中で、重要なかぜ薬だったヤナギが使用されていた。これがカシへと移って行ったことが分かった。寺が病院と学校の二つの役割を持ち、この行事も精神面だけではなく、実用的な健康面にも意味があることが分かった。さらに丸谷さんは、岡山県から全国にわたり調査研究し、著書にしたいと望んでいる。



会陽に関する写真集め
西大寺で写真展

TEL 086-222-0801
 一軒建館蔵

〒700-8585 岡山県岡山市西大寺
 西大寺会陽研究会
 〒700-8585 岡山県岡山市西大寺
 西大寺会陽研究会
 〒700-8585 岡山県岡山市西大寺
 西大寺会陽研究会

「心木」探しています

岡山で写真展 会陽の起源探るため 開く丸谷さん

岡山市・西大寺観音院が、四年間に及ぶ研究の裸祭り知られる会陽の研究成果を写真で披露した展覧会「宝木(たからぎ)伝説」を、三菱信託銀行口岡山市西大寺上一丁目、ピー(岡山市本町)で開



心木の情報提供を呼び掛ける丸谷さん

いている。丸谷さんは仏教医学説で独自の会陽解明に取り組んでいるが「会陽の起源を推測するために古い形態の心木(しんぎ=宝木)をもっと見たい」と心木情報を寄せてくれるよう呼び掛けている。

丸谷さんの研究では、現在最古の心木は、一六一六年の西大寺観音院のもの。また古い形態を残しているものでは井原市笹賀町の金鋪寺のもの(一八六七年)があり、いずれも樹皮の付いた心木がお札に漢方と見られる葉と共にくまれている。この形態が、裸祭りのように奪い合う前の心木と思われ、会陽の起源を推定できるのではないかと丸谷さんは写真展で訪れる人たちに心木情

報の提供を呼び掛けている。丸谷さんは、仕事の関係で会陽について調べ始めたが分からない点が多く、その道の識者に会いながら独自の研究を開始。これまでにカシが一般的と思われていた心木がヤナギ製だったマヤナギは仏教とかかわりの深い漢方だったなどを明らかにしている。今回の写真展は、昨年に続き二回目の開催で、これまで撮影した心木(二十カ寺余り)や西大寺観音院についての写真などを展示している。同展は来年一月十九日まで(土、日曜、祝日と三十日から一月三日は休み)。

西大寺浜、丸谷憲二さんの写真展『宝木伝説』が岡山駅前三菱信託銀行岡山支店ロビーで始まった。

写真展では、それぞれ生まれの異なる樹皮付、六角形、八角形、十二角形の宝木を紹介、分かりやすく解説している。

丸谷さんは会陽の起源などについて独自の研究を続け西大寺会陽の『宝木=やなぎ』説を明らかにしたことでも知られ、今も会陽や宝木に関する情報収集に努めている。

写真展は第1部が12月29日まで。第2部が平成8年1月4日から19日まで。

問い合わせは☎943-4122 (FAX 944-1152) へ。

写真展
『宝木伝説』
岡山駅前の銀行
ロビーで始まる

西大寺浜
丸谷
憲二さん

平成7年12月5日 山陽新聞 情報ひろば
写真展 たから木伝説

29日まで岡山市本町 三菱信託銀行岡山支店ロビー
西大寺会陽の宝木(しんぎ)のさまざまな種類を紹介

平成7年12月9日「岡山民俗学会・12月定例研究発表会」にて発表
演題 「仏教医学における柳について・備前西大寺会陽を題材として」

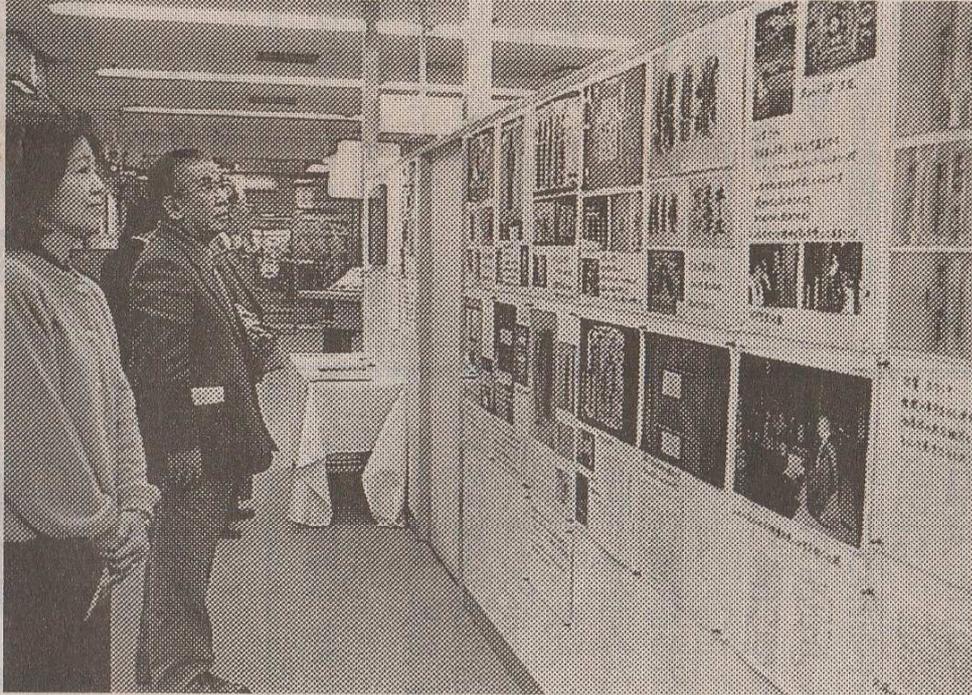
要点は、備前西大寺会陽の起源について調査研究したところ、「仏典・漢方・薬用生薬学の研究」になってしまいました。「仏教の智慧について学びたい」というものです。

西大寺会陽知って

岡山の丸谷さんが写真展

県内各地の宝木伝説紹介

岡山市の西大寺会陽などで知られる宝木（しんぎ）の写真を集めたユニークな写真展「宝木伝説」が岡山市本町の三菱信託銀行岡山



支店ロビーで開かれている。

写真展を開いているのは岡山市西大寺上の会社員丸谷憲二さん(四八)。丸谷さんは

西大寺会陽について調べるうち宝木に興味を持ち、三年前から休日を利用し、岡山県下の寺や神社のほか民俗学者らを訪ねて宝木を研

究している。西大寺会陽を広く知ってもらおうと今回初めて写真展を開いた。

会場には、邑久郡牛窓町の千手山弘法寺や岡山市沢田の恩徳寺など県内二十一カ所の神社仏閣で撮影した宝木などのカラー写真約四十点を展示。宝木は六角形、八角形、十二角形などさまざまで、材質はアオヤナギなど。宝木を保存している寺や神社の写真のほか、写真の下に文献のコピーや説明文を添えている。

同市徳吉町の主婦松本里美さん(四八)は「宝木の種類がこんなにあるとは知らなかった」と興味深そうに見入っていた。会期は二十九日まで(土・日曜日を除く)。

宝木の写真を集めた写真展「宝木伝説」



会陽研究の成果を岡山
民俗学会で報告した

丸谷 憲二さん



医学的効果に焦点当て 開基や発祥の周辺調査

岡山市西大寺に転勤で
住み始めて二十五年。日
本の三大奇祭の一つとさ
れる西大寺会陽を任人な
りに見てきたが、得意先
の依頼で「ほんの概略を
調べるつもり」が四年近
くたつ今も終わらない。
このほど研究成果を岡山
民俗学会の十二月研究発

などなぞめいた言葉に次
々と解説を加えていつ
た。いずれもそれらがも
たらす医学的効果に焦点
を当てているのが特徴
だ。

研究を始めた当初、心
木は「ヤナギだった」こ
とを知った。ヤナギは風
邪などに効く漢方。そこ

表で報告、「数年前には
本に」とさらなる意欲を
燃やしている。

岡山民俗学会の約二十
人の会員の前で、一般で
は手に入りにくい仏典を
掲げ、心木（しんぎ）宝
木とも書き会陽で投げ、
奪い合う）、串牛玉（くし
ご）心木の前に投げる）

から会陽解明に仏教医学
説を持ち込み、今では西
大寺観音院の開基などに
研究の幅を広げる一方、
写真展（三菱信託銀行岡
山支店ロビーで来年一月
十九日まで）で心木の写
真などを披露している。

「会陽の起源を探るた
めには古い形態の心木の
写真をもっと見る必要が
あるが、会陽発祥は仏教
伝来のところとも関係する
のでは」と思い、今後は薬
として入ってきた茶も合
わせて考えているんで
す」とサラリーマン研究
家の意欲は尽きない。が、
研究の狙いはあくまでも
「西大寺の活性化です」
と言う。

石川県出身。岡山市西
大寺上一丁目。四十八歳。

平成8年1月19日 山口県玖珂郡周東町 極楽寺住職様 来岡

写真展最終日の平成8年1月19日に、山口県玖珂郡周東町より太田黒晃徳 極楽寺住職様、南谷多賀男 周東町教育委員会社会教育課長様、吉山美夫 周東町文化財審議委員会会長様においでいただきました。

1440年の「備前国西大寺勸進帳」に「皆足の妻」とあり、大領秦皆足朝臣が建立した極楽寺住職様に二つの寺院は「夫婦寺」と報告したからです。

平成8年1月27日 「ころといのちを考える会・岡山・1月度定例学習会」

演題 「仏教医学における柳について・備前西大寺会陽を題材として」

岡山市磨屋町 光珍寺 午後2時～3時半

「会陽の起源」については、調査記録も研究論文もありません。私は会陽で奪い合う「シンギと枝牛玉」の「材質と形状を比較分析」することにより、シンギと枝牛玉の「奪い合うだけの宗教的価値」を探求し、同時に「会陽の起源」を探求しました。最初に何処かの誰かが、会陽と言う行事を発案して、他はそれを真似たわけです。そして、そこに各寺社独自のアイデアを追加しました。「工夫と改善」です。一番素朴な形態の寺社が、会陽の発祥地となります。シンギは「心木・真木・神木・信木・宝木」と書かれています。私は、「シンギと枝牛玉の材質と形状」にこだわります。しかし、シンギは加工材です。木の細胞を採取し、顕微鏡で覗かないと木の種類は特定できません。社寺の伝承・葉の形状等により記載しております。

平成8年(1996年)9月14日・「納豆博士の食養生・アスピリンを食べる」

岡山リビング新聞社

<3> 1996年(平成8年)9月14日 土曜日



納豆博士の
食養生

洋の東西を問わず、確かに効くものは効くと実感することがある。「アスピリン」もしかりで、実はこの薬、最近私たちが食べている食品と深くかかわっている。

岡山市西大寺の祭り「会陽(えいよう)」で、裸の男たちが奪い合う、神木(心木、宝木)しんぎの研究をしている丸谷憲二氏にかつて伺った話がある。なんでも、神木は柳の木でできていて、仏教医学では柳は万能薬であったそうである。

一方、ヨーロッパでも古くから、柳の木の皮を煎(せん)じたものは、解熱、痛み止め、そしてリウマチの薬として使われ、1830年には、その煎じたものからサリシンが結晶として取り出され、また1953年には、その誘導体のアスピリンが合成された。

サリシン、また、かつては日本酒などに防腐剤として添加されていたサリチル酸は、すべてアスピリンの仲間である。「超薬アスピリンで成人病を防ぐ」(草思社、1995年)によれば、心臓病からがんの転移まで、某メーカーの小児用アスピリンを毎日半錠飲むことで大きな効果があるそう。ただし、アスピリンは大変安い薬で、この療法に

かかる薬代も1日5円ばかりと安すぎるのが、病院で勧められない理由とか。

ところで、今年になってアメリカ心臓病協会(AHA)主催の「心血管疾患の疫学と予防」に関する会議に出されたニュースは大変興味深い。

これによると、毎日アメリカ人が食べているアスピリンの仲間の総量は、1日当たり10〜200ミigramにも達するそう、この量は心疾患の予防に有効と考えられているアスピリンの推奨量(40〜80ミigram)に十分というもの。

アスピリンの仲間はオレンジやトマトなどの野菜や果物、またスパイスの多くに天然タイプのもが含まれるほか、保存料や風味増強剤として添加されているものも多い。さらに化粧品に使われているものは皮膚を通して吸収される。

そして、こうした加工食品を食べるようになった1960年代半ばから、アメリカでの心臓病疾患がぐっと減ってきたというのである。災い転じて福となつているのかもしれない。

さて、岡山は旭川にしろ、高梁川、笹ヶ瀬川にしろ、河川敷には柳が多い。6月ごろ、その枝を切ってきて花瓶に挿しておく、1週間ばかりで根が出てきて、水もまったく腐ることがない。私は大学への道すがら、その葉っぱをサラダのようにして食べることができた、きつと素晴らしい柳の神秘にあやかれるのではと思つている。

(岡山県立大学助教授・倉敷芸術科学大学教授・医学博士 須見洋行)

「アスピリン」を食べる

92

「アスピリン」を食べる

洋の東西を問わず、確かに効くものは効くと実感することがある。「アスピリン」もかりで、実はこの薬、最近私たちが食べている食品と深くかかわっている。

岡山市西大寺の祭り「会陽」で、裸の男たちが奪い合う「神木（心木、宝木）」の研究をしている丸谷憲二氏にかつて伺った話がある。なんでも、神木は柳の木でできていて、仏教医学では柳は万能薬であったそうである。

一方、ヨーロッパでも古くから、柳の木の皮を煎じたものは、解熱、痛み止め、そしてリウマチの薬として使われ、1830年には、その煎じたものからサリシンが結晶として取り出され、また1953年には、その誘導体のアスピリンが合成された。

サリシン、また、かつては日本酒などに防腐剤として添加されていたサリチル酸は、すべてアスピリンの仲間である。「超薬アスピリンで成人病を防ぐ」（章思社、1995年）によれば、心臓病からがんの転移まで、某メーカーの小児用アスピリンを毎日半錠飲むことで大きな効果があるそう。ただし、アスピリンは大変安い薬で、この療法にかかる薬代も1日5円ばかりと安すぎる。病院で勧められない理由とか。

ところで、今年になってアメリカ心臓病協会（AHA）主催の「心血管疾患の疫学と予防」に関する会議に出されたニュースは大変興味深い。

これによると、毎日アメリカ人が食べているアスピリンの仲間の総量は、1日当たり10〜200ミリグラムにも達するそうで、この量は心疾患の予防に有効と考えられているアスピリンの推奨量（40〜80ミリグラム）に十分というもの。

アスピリンの仲間はオレンジやトマトなどの野菜や果物、またスパイスの多くに天然タイプのものが含まれるほか、保存料や風味増強剤として添加されているものも多い。さらに化粧品に使われているものは皮膚を通して吸収される。

そして、こうした加工食品を食べるようになった1960年代半ばから、アメリカでの心臓病疾患がぐっと減ってきたというのである。災い転じて福となつているのかもしれない。

さて、岡山は旭川にしろ、高梁川、笹ヶ瀬川といった川にしろ、河川敷には柳が多い。6月ごろ、その枝を切ってきて花瓶に挿しておく、1週間ばかりで根が出てきて、水もまったく腐ることがない。私は大学への道すがら、その葉っぱをサラダのようにして食べることもできた。きつと素晴らしい柳の神秘にあやかれるのではと思っている。

(1996.9.14)

[『「会陽」って何だろう』を公開](#)

[「宝木」を何と読んでいたのだろうか](#)

[「昭和6年の西大寺観音院 祝主資料」](#)

[四天王寺どやどや（大阪府）・黒石寺蘇民祭（岩手県）](#)

[篁峯寺蘇民祭（宮城県）・大山祇神社生土祭（愛媛県）](#)

平成 19 年 2 月 6 日 知研岡山 2 月度講演会
「薬用植物学による神木(宝木)の解析」



相澤泰憲様(岡山商科大学)から、「何故、奪い合うのか」と、経営学の「仮説思考」についての質問を戴きました。私は、歴史学・民俗学の研究者ではありません。ISO9001(品質経営)の指導をしており製造工場における品質管理の専門家です。製造工場における「品質管理の手法」を郷土史研究に応用しております。

「研究手法の公開」から話を始めました。岡山県立図書館の公開テーマ「会陽って何だろう」では、忙しい現役の皆様には、興味・関心は持っていただけないと思います。その理由は、山陽新聞等によって皆様は「会陽」について「自分なりの結論をだしている」からです。「会陽について、新しい話なんてありえない」、つまり、「時間のムダ」との結論です。現役の皆様は、仕事に参考になるような話から始めたいと思います。最近、経営学で「仮説思考」がブームになっております。「問題発見・解決の発想法」です。私が、郷土史研究に応用している「品質管理の手法」は、「仮説思考の具体的な使用例、応用例」ではないかと考えます。「仮説思考」とは、情報が不十分だったり、分析が進んでいない段階で、先に自分の「仮の答え」を持つという考え方です。結論を先に考え問題の全体像を素早くつかみ、正しい解決策を効率よく導き出す手法です。重要なことは、早く仮説を立てる「スピード」を重視することです。決断を早くすることにより先見性が養われ、限られた時間を重要な問題の検証にあてられます。その結果、仕事の質も高まります。

本日の演題「薬用植物学による神木(宝木)の解析」の講演から、「どうすれば早く良い仮説を立てられるか」、「仮説が正しいかどうかを、どう検証すれば良いのか」を、体感していただければ幸いです。日本人はあらかじめ問題点がはっきりしている場合には対処できますが、自ら問題を発見する能力が弱いと言われます。自らの行動を見直すきっかけになる話をしたいと思います。「最も重要なデータ」は何か。重要なのは「仮の答え」「仮の結論」です。「常に仮の答えを持ちながら、全体像を見据える習慣」を仮説思考と呼びます。クレーム原因を調査する「品質管理の手法」を郷土史研究に応用しています。2時間 30 分の講演になってしまいました。

平成 19 年は私の研究『会陽の起源への挑戦』にとって重要な記念すべき年でした。16 年間にわたる孤独な研究活動が公的に認められたからです。参考文献として「宝木伝説・2006 年」とデジタル岡山大百科「会陽って何だろう」が収録されました。

岡山県教育委員会文化財課が調査に入る前に、岡山県内の会陽のシンギ、30 箇所の写真撮影が終了し、県立図書館のデジタル岡山大百科の「会陽って何だろう」に、28 箇所を公開しました。目標は「会陽情報」のデータベース化です。正確な生情報を研究者や岡山県民に公開することに意義があると考えます。

平成 20 年(2008 年)2 月 10 日『会陽』起源はどこ』朝日新聞 岡山 版

2008年(平成20年)2月10日 日曜日 13版

「会陽」起源はどこ？

西大寺の研究家 13日に講座



丸谷 西之助 さん

日本三大奇祭の一つといわれる岡山市の裸祭り・西大寺会陽をはじめ、県内の多くの寺社に伝わる伝統行事「会陽」。その起源を長年研究してきた岡山民俗学会員の丸谷西之助さん(80)＝岡山市西大寺と十丁自＝が、13日に県立図書館で「会陽の起源への挑戦、17年目の中間報告」と題する講演を開く。10日に開まれる西大寺会陽を前に、「起源の謎に思いをはせて、祭りを楽しんでほしい」と話している。

県教委が06、08年度に実施したという、シンギは寺社によつてた総合調査によると、会陽 宝木、心木、神木などと表記が概は岡山県や香川県にあり、シンギ 々だったことわかっていて、辛を裸で舞い合う裸会陽のはか、くしりき、モチまき方式などに改められた祭りも含め、岡山県内13カ所で現存、すでに廃止した寺社を含めると、かつては100カ所以上で営まれていた。

「俗説が多く、書物によって説明がばらばら。最も有名な西大寺会陽でも、室町時代の『目しり(永正ア)』に始まったといえられていたが、裏付ける文献はない」と丸谷さん。以来、各寺社の伝承調査に加え、江戸

時代の古シンギを保存している旧家などを訪ね歩き、その形状や材質を調べる手法で起源の謎に迫ってきた。

「これまで30本ほどシンギを見たが、円筒形や八角柱、十二角柱など形状は様々。比較研究の精進、最も古い形状を捜している」とみられる瀬戸内市生野町千手の私法寺で行われていた会陽が、今のところ最も起源に近いと推測するに至ったと話す。

丸谷さんは県立図書館のウェブサイトで「デジタル岡山大百科」で、「会陽って何だろう」と題するコーナーを担当。今回は、サイトの活用促進を兼ねて企画した。

講座は13日午後1時半～3時半、同館2階のデジタル情報シアターで、参加無料。問い合わせは同館メディア班(086・224・1288)へ。

「謎に思いはせ祭り楽しんで」

『会陽の起源への挑戦』 17 年目の中間報告

「会陽の起源へ挑戦」 スライド

岡山県立図書館の依頼により、「会陽ってなんだろう・17年目の中間報告」という演題で2時間講演致しました。71人のお客様において戴きました。メディア協力課の福田左千夫様より「参加者全員に講演内容から何か一つは持って帰ってもらいたい。」としてテーマ選定依頼があり、① シンギの層別(種類)と② 研究開始の動機を説明しました。

県立図書館の配慮で発表資料を配布して戴き、分かりやすく説明することができました。特に、① 牛玉宝印紙の密教における飲み方の実験を公開しました。公開実験により、密教について皆様に納得戴けました。② 御香のブレンド実験の内容を詳細に報告し、御香の匂いをかいで戴きました。インターネットで伝達できないものに「匂い」があります。「シンギに使用する香の配合実験」を1ヶ月前の平成18年12月13日に1対1にブレンドしました。修正会の1週間で香が強くなりました。参加者にお香の香りを嗅いでいただきました。

平成 20 年(2008 年)5 月 18 日 『眞木と宝木 昭和 6 年 祝主資料の紹介』

日本共産党講演会ニュース「しじみ 第 113 号」

(1)

しじみ

NHK テレビのアナウンサーは、西大寺会陽のニュースで、シンギを「タカラのキ・シンギ」と放送しています。山陽新聞社の記事では、漢字で「宝木と書き、しんぎとルビ」しています。この違いは言葉で話す場合と、表記する場合の違いのようにも思われます。現在、備前西大寺で生れ育ったほとんどの人達がシンギを「宝木」と表記しているようです。しかし、「宝木」はシンギと読めません。日本全国に「宝木」という地名があります。読み方は、①ホウキ、②ホウノキ、③タカラキ、④タカラノキです。シンギとは読みません。

眞木と宝木

—昭和6年祝主資料の紹介—

「眞木」はシンギと読みます。昭和六年には「宝木」を何と読んでいたのでしょうか。昭和六年の祝主資料の表記から考察すれば、NHKテレビの西大寺会陽のニュース、シンギを「タカラのキ・シンギ」との説明が正確であり正しいこととなります。そこで西大寺にお住いの皆様への質問です。① 貴方は何時から「宝木」をシンギと読むようになりましたか。② 昭和六年には「宝木」を何と読んでいましたか。教えてください。

昭和六年の祝主資料は、三月一〇日の遍明院(瀬戸内市牛窓町千手)での法話「会陽発祥寺院千手山弘法寺」の後に、現物を参加者に初公開しました。現在、岡山県立図書館のHP・デジタル岡山大百科「会陽ってなんだろう」にて公開すべく編集中です。祝主資料の公開は初めてです。

合掌

(丸谷憲二)